

東京音楽大学は日本最古の歴史を誇る私立音楽大学で、その前身の東洋音楽学校は1907年に設立されました。以来、本学の卒業生は、ジャンルを問わず常に日本の音楽界をリードし、また、音楽を学ぶことを通じて社会に貢献する場を切り拓いてきました。2018年に創立111周年という節目を迎えるにあたり、本学学長と理事長にお話をうかがいました。

歴史の厚みによる恩恵

学長 東京音楽大学は、この数十年間で飛躍的にレベルアップしてきたと思います。もちろん以前にも素晴らしい音楽家が各領域で活躍されていましたが、本学に限らず、昔の日本では、音楽大学を「習い事」の延長線として、ゆったりととらえがちな風潮があつたように思います。とはいえ、重厚な歴史に支えられた本学は、これまでのべ2万人を超える卒業生を輩出し、彼らは、今の世代の若き音楽家たちが日々切磋琢磨することを、心から喜んで支援・応援してくれています。その層の厚さと熱き情熱は、現役の学生たちや将来入学される方々にとって、本学ならではの貴重な礎となっています。

には常に素晴らしい音楽家 指導者の方々が集まっています。現在の学生たちに「習い事感」はまったくありません。むしろ、演奏家への道から一般就職まで、それぞれ異なる選択肢の中から、自分が進む道を、4年間、音楽と教養を学ぶことを通じて決断しなければなりません。このため、東京音楽大学の学生たちには、

来年、創立111年を迎えるにあたり

理事長×学長対談

情で、決して間に合わない。

学長 音楽には、それがなければ人間は生きていけない、不思議なパワーが秘められているようです。以前、アメリカで演奏した際、月に行つたある宇宙飛行士と出会い、とても興味深い話をうかがいました。「完全な沈黙、無音状態の宇宙では、水と同様に音楽がないと生きていけない」というのです。宇宙空間で音楽の真理の存在とそのパワーを確信した彼は、それ以来、熱烈な音楽愛好家になり、支援者にもなっているんです。

新キャンパスの開校

理事長 池袋ヨーナンバスの一部が詰の表材作といふ理的な理由が、新キヤンバス開校に踏み切る直接的なきっかけとなりました。正直なところ、現キヤンバスの一部は建て替えなければならないタイミングを迎えたわけですが、現キヤンバスの敷地内で建て替えると、法規制から床面積が半分になってしまふ。そのため新キヤンバスの候補地を探していいたところ、中目黒・代官山という音楽芸術と親和性の高いエリアに出会ったわけです。

学長 今の南池袋は、「雑司ヶ谷 鬼子母神堂」が象徴するように、都会でありながら歴史の重みを感じる閑静な街。一方、中目黒・代官山の新キヤンバス周辺は、現代的で洗練され、きわめて発信性の高いエリアです。現キヤンバスと新キヤンバスの融合は、学生たちにとっても、とてもいいコンビネーションだと思います。

理事長 「両キヤンバスで音楽とリベラルアーツをじっくり学び、代官山・中目黒でその成果を世界に積極的に発信する」という図式が考えられるでしよう。そのためにも、新キヤンバスには最新のデジタル技術を駆使できるレコードイングスタジオも設置。商業音楽を専攻する学生のみならず、クラシック音楽を追求する学生たちにも、ぜひ積極的に利用して、自分が考



新ロゴの設定

界中に発信してほしいと思つています。学長 東京音楽大学は、楽器や練習施設など音楽を学ぶ環境は非常に充実しています。これに、中目黒・代官山キャンパスが加わることにより、ますます教育と学びの環境は充実します。ここまで恵まれた教育環境には、なかなか出会

来る音楽を通したメッセージを世界中に発信してほしいと思ってい

恩恵は一生続くもの。それを大学4年間で知り、身につけることで、人間として立派に成長するわけでも、「人間教育としても音楽はとても有意義なことだ」と痛感しています。もちろん、音楽大学では演奏技能や音楽理論の習得は不可欠ですが、それを通じて得るものに抱いて

音楽を通して人間の本質を学ぶ

A black and white photograph of an elderly man with glasses and a suit, gesturing with his hands while speaking. He appears to be giving a lecture or presentation. The background shows a piano and some papers on a desk.

が自分の身体に入り込んでいくことを、人生で最も感
受性が強い、若いうちに実感していただきたいと思
いますし、その「音楽の恵み」への実感は人生の歩みと
共にますます深まっていくことでしょう。



学長野島 稔 *Minoru Nojima*

理事長 鈴木 勝利 Katsutoshi Suzuki

このロゴを使用していきたいと思つています。学長 我われは、今後も常に「教育の質」を考えていかなければなりません。それは決して教員だけで成就できるものではなく、事務職員や学生たちも含めて、東京音楽大学全関係者が一致団結してこそ可能になるものです。我われがアイデンティファイするための一つの契機として、今回の新ロゴ設定はとても有意義だと思います。

このロゴを使用していきたいと思っています。学長 我われは、今後も常に「教育の質」を考えていかなければなりません。それは決して教員だけで成就できるものではなく、事務職員や学生たちも含めて、東京音楽大学全関係者が一致団結してこそ可能になるものです。我われがアイデンティファイするための一つの契機として、今回の新ロゴ設定はとても有意義だと思います。

創立111周年を迎える意味 理事長 2017年5月をもって、東京音楽大学は創設110年目に入りました。しかし、110年という年月はもちろんきわめて貴重で稀有な財産ではありますが、それがあくまでも過去の積み重ねに過ぎません。

東京音楽大学とそこに学ぶ学生にとり最も大事なことは、過去の実績の上に立つ「未来」です。その意味からも、本学関係者の皆さんには、「東京音楽大学の新たなスタート」としての111周年を、ぜひ強く意識していただきたいと願っています。

東京音楽大学と海外を取りは、ITメディア頻繁になり、本学の意識しています。そうして訴求していこうと考え、「TCM」というコープレートロゴを正式に決めました。実は海外の方が本学にコンタクトされる際、もともとTCMと記述されることが多くつたんです。今後は、日本国内においても「TCM」というように、幅広く誰もが直感的に認識するようになります。